

Q：今年の中国鄭州では、子ども向けパルクールコースが流行り始めて、本当にうんざりしています。みんながなぜこんな流行りものや目立つスポーツに飛びつくのか理解できません。幼児は、毎日サーカスの役者のように訓練され、私たちもちょっとずつ影響を受けています。こんな無茶苦茶なカリキュラムは本当に嫌になるし、幼児のことを全然考えていない。今年の鄭州では、多くの幼稚園でパルクール授業を取り入れていて、本当に信じられない。ただ親に「子どもがすごい」と思わせただけじゃないか！子ども自身はそんなに好きじゃないはずなのに。正しい方向への導きをお願いします。（中国幼児体育指導者）

A：お話の内容から察するに、今年の中国・鄭州で、幼稚園や子ども向け教室が「パルクール」を取り入れ、それが“目立つ流行”として広がっている状況に強い違和感を感じていらっしゃるのですね。

背景と問題点を整理しますと、

現状は、①多くの園や教室がパルクールコースを導入、②子どもたちはサーカスのようなパフォーマンス的訓練を受けている、③本人の興味よりも「保護者の満足」や「話題性」が優先されている、その結果、教育内容が子どもの発達や安全よりも“見映え”重視になっている。ということでしょうか。

問題の本質は、①教育目標のずれ：本来、幼児期の体育は「全身運動」「基礎体力」「安全な動き方」「あそびの楽しさ」を重視すべきですが、ここでは「高度で派手な技」が目的になってしまっていますね。②心理的・身体的負担：幼児の骨や関節、バランス感覚は発達途上で、過度なジャンプ・高所動作・反復練習はケガや発達への影響が懸念されます。③本来の興味との不一致：幼児が本当にしたいことより、「親に見せるため」「SNS 映え」の動機が強い。

そこで、建設的な方向性で、提案してみますと、①安全基準の明確化：高さ制限や動作内容を年齢別にガイドライン化し、ケガリスクを減らすこと。②あそびベースへの切り替え：パルクールの要素を完全に否定せず、低難度の動き（障害物くぐり・バランスあそび・段差移動など）として安全にアレンジする。③保護者教育：「派手さ＝成長」ではないことを啓発し、幼児期は多様な運動経験が大切であることを説明します。④子どもの意見尊重：必ず本人に「楽しいかどうか」を聞き、嫌がる場合は無理に続けない。⑤多様な体育の導入：走る・投げる・ぶら下がる・転がるな等、基礎運動能力を総合的に育む内容へシフトしましょう。

この流行を感情的に否定するより、「子どもにとって安全で発達の適切な体育」という方向へ置き換える方が、周囲の賛同も得やすくなります。

（前橋 明）